



農業委員会だより

「おいしい給食、ありがとう」(ハツ保小 食材生産者との交流給食会)



- 農業委員会・埼玉中央農協・認定農業者との情報交換会
- 農業委員さんのコラム
- 遊休農地再生利用事業を視察研修
- 平成24年度農業委員研修
- 農業者年金について
- 編集後記



第10号

平成25年2月20日発行
 発行：川島町農業委員会
 編集：川島町農業委員会だより編集委員会
 〒350-0192
 埼玉県比企郡川島町大字平沼1175
 電話 049(297)1811(代表)
 049(299)1760(ダイヤルイン)

3者合同情報交換会



3者合同情報交換会

(農業委員会・埼玉中央農協・川島町認定農業者協議会)

お蔵米は？ 遊休農地は？

問合せ 農業委員会事務局 ☎ 299-1760

12月14日、認定農業者協議会の皆さんと埼玉中央農業協同組合(JA)・町農業委員会の3者による情報交換会がJA埼玉中央川島基幹支店で行われました。

当日は、認定農業者17人をはじめ、各関係者など44人が参加し、川島町の農業について、活発な意見交換が行われました。

今号は、その1部を紹介します。

※本文中、農業者は認定農業者協議会
JAは埼玉中央農業協同組合の略です。

■ 遊休農地は？

農業者 担い手不足による遊休農地の増加が全国的な問題となつていきます。農地保全対策はJAとして考える、生産性がなく、経済の活性に繋がらないので、行政の支援なしでは継続は難しいと思います。

今後、この件についての予防措置として、何か考えはありますか。

町 遊休農地の問題は以前から課題となつています。全ての負担を行政やJAが背負っていくのは困難です。農地の集団化が可、あるいは不可というのも地域によって異なります。行政とJA、土地の所有者が一体となつて、取り組んでいく必要があると考えます。

皆さんの意見を聞き、具体的措置などを検討していきたいと考えています。

農業委員会 農業委員会は、年に2回、農地パトロールを実施しています。パトロール後、遊休農地につい

ては通知による勧告を行っています。

なお、通知には、シルバー人材センター、比企アグリサービスの紹介もあります。それに基づく電話相談等を行った後、再調査をして是正に努めているのが現状です。

農業者 JAとしては、どのように取り組むつもりですか。

JA 遊休農地の増加について、JAとしては比企アグリ、米麦課を中心に農地利用集積円滑化事業(※)に取り組んでいます。この事業を通して、効率的な農地の利用に行政と共に取り組んでいきたいと考えています。



※農地利用集積円滑化事業
農地等の効率的な利用に向け、その集積を促進するため、創設された事業。
農地等の所有者から農地等の買入れや借入れを行い、一時的に保有する農地等を活用して、新規就農希望者に対して農業の技術、経営の方法に関する実地研修を行う事業などがある。

町 現在、町では担い手不足、耕作放棄地の増加を見込み、5年後、10年後の町の農業を考える「人・農地プラン」の作成に農水省・農林振興センターと共に取り組んでいます。このプラン作成を契機に、行政、JA、農業委員会で協力して、町農業の明るい展望を開ければと考えています。

農業者 担い手としては、比企アグリサービスのようないき必要不可欠です。今後は、地元の専業農家との連携を図っていただければと思います。



「野菜と私」

道祖土委員

私の農業への就業までの道のりを、振り返りながら述べてみたいと思います。

私が、20代前半の頃「農業は嫌いだ。死んでもやらない」と、家族の前で明言したことを思い出します。その理由は、農業一筋で生活してきた私の生家にあります。

両親は兄夫婦と米・苺の栽培をされており、朝早くから苺の摘み取り、午後十時までが集荷の締め切り時間だったため、夜遅くまで出荷のためのパック詰めをしていたと思います。私が勤めから帰っても、その仕事は続いており空腹を抱えながら手伝う毎日でした。

労働の割には収入が少ないことが、「農業嫌い」の大きな要因だったように思います。

そして、農業をやらないと明言してから変換し、農業をやるようになったキッカケは、職場でのストレス解消のために始めた庭先での野菜作りでした。手間をかければかけただけの成果が出る野菜は、私に楽しさを与えてくれました。

また、手塩にかけた野菜を職場で開催された障がいを持つかたちのバザーに提供し、非常に喜ばれたことが、農業が好きになった理由です。

バザーを主催した団体や当時の上司とは、現在も親交があり、今でもバザーでの「みんなの笑顔」が話題になります。

このようなことが、農業に対する意識の変化となり、そして、農地の確保もできた今では、日々野菜作りに専念しています。

額の汗をぬぐいながら、あせらず、よくばらず、身の丈に応じた作り方をしたいと思います。



「川島町とともに」

遠藤委員

川島町は、町制施行40周年を迎えました。

私も昭和49年に農業を始めて、今年で38年になります。川島町とほぼ同じ年数を歩んできましたが、40年経っても農業の現状は厳しいままです。

昭和45年に始まった米の生産調整は、依然として継続していますが、米を筆頭に農産物の価格は変わらず、かえて米価は下がっている状態です。

その一方で、原油の価格上昇の影響で経費は上がり、農家の所得を圧迫しています。今後、TPPに加わればそれ以上に厳しくなります。

約10年前にJAの直売所ができ、町外からのお客さんも新鮮な野菜を求めて来店していただき、年々売り上げを伸ばしています。

また、圏央道川島インターの開通で首都圏から

のお客さんも呼べるようになりました。

今、テレビ・ラジオでは数多く、農産物のCMが流れており、JAのお蔵米もCMで成果を上げているそうです。川島町は、イチジク栽培に力を入れており、米・イチゴを筆頭に数多くの野菜もあります。これらを「インターネットやマスコミを利用して、今以上に売り込んでいく」ことが川島の農業の生きていく道ではないでしょうか。

私は、正月の歩け走ろう大会、ゴールデンウィークの川島一周ハイクに毎年参加しています。堤防から町を見ると中山の工業地帯、伊草の商業地帯、三保谷、出丸、八ッ保、小見野の水田を中心とした農業地帯、本当にバランスの良い美しい町ができました。このすばらしい川島を一農業者として、一町民として後世に残したいと思っています。

農地Q&A

Q 私には、いつしよに住んでいる息子がいます。

私も年齢のため、体力的に農作業がきつくなってきました。今のうちから息子に農地を徐々に贈与していきたくと考えているのですが、許可は必要でしょうか？

A 身内での贈与であつても、農地法第3条の許可を受ける必要があります。

許可を受ける条件は

・所有している農地または借りている農地の全てを効率的に耕作していること。(例えば、手続きをとらずに宅地の一部や駐車場のよう農地以外の利用をしている農地があると、この要件に該当しないことになってしまいます。)

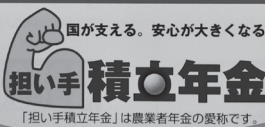
・取得後の農地面積が、50a以上であること。

※右記以外にも要件があり、すべての要件に合致することが必要です。

詳しくは農業委員会事務局(☎299-11760)までご相談ください。

農業者年金

農業に従事する方なら広くご加入いただけます



農業者のかたであれば広く加入できます



知って得する！ 農業者年金

あなたの老後生活への備えは十分ですか？年金は家族一人ひとりについて準備することが大切です。老後の備えは国民年金プラス**農業者年金**が基本です。しっかり積み立て、がっちりサポート安心で豊かな老後を

●安心できる老後生活への備えに

生活の糧として必要な収入を終身年金で確保することが最適です。

現在65歳の日本人の平均寿命は、男性が18.9年(83.9歳)、女性が24.0年(89.0)歳です。この長い老後生活に備えるためには、生きている間、必ず決まった時期に決まった金額が受けられる終身年金への加入が最適な方法です。

●国民年金の上乗せ年金として終身受給できる

農業者年金

高齢農家の家計費は夫婦二人で、月額約23万円と

いうデータがあります。この場合、農業者のかたが国民年金を満額受給(夫婦お二人で13万1千4百円)しても、月額10万円が不足することになります。

農業者にはこのような、不足額を補うために農業者年金制度が用意されています。

●家族一人ひとりの加入が大切

農業者年金への加入がご主人だけでは、先にご主人が亡くなると、妻であるあなたの老後の支えは国民年金(満額で月6万5千7百円)だけになってしまいます。家族一人ひとりが農業者年金に加入しましょう。

●耕作放棄地の解消のために

先進地視察研修

10月17日、町農業委員会では、視察研修のため、新潟県新潟市北区を訪問しました。

新潟市北区では、平成24年1月から耕作放棄地の解消を目的に、「遊休農地再生利用事業」をスタートさせました。

北区には全農地の1.6%に当たる74haの耕作放棄地がありました。農業委員会では農地パトロールなどを通じ、指導や啓発活動に努めていましたが、生産者の高齢化に加え、葉タバコの一斉廃作などで遊休化の懸念が一層広がっていました。

そこで耕作放棄地解消のモデルとして、北区南浜地区の砂丘地2haにサツマイモ、大豆、大麦、ソバの作付けを計画しました。

農業委員が率先して利用権設定し、栽培に当たる

ことにし、農事組合法人のファーム岡方が90aに大豆(エンレイ)を播種しました。農業者個別所得補償制度も活用して、安定生産を目指しています。

また、この事業は農作物の栽培だけでなく、地域の教育機関やコミュニティと連携して加工・商品化にも取り組んでいます。

県内にある新潟医療福祉大学の学生と共同で約7aの畑にサツマイモ(シルクスweet)の定植も行っています。これは、大学が持つ栄養や保健の知識の活用が目的とのこと。

なお、同大学の教授は農業委員会主宰のプロジェクトチームの一員にもなっており、収穫したイモや大豆、ソバなどの新たなレシピやお菓子の試作にも取り組んでいるそうです。

●編集後記●

まだまだ寒い日が続きます。雪を背った富士山・浅間山・男体山を眺めながら毎朝の犬の散歩は寒さを忘れませう。

昨年末には、衆議院解散・選挙がありました。新政権には景気回復に期待します。さて、近年農業従事者の高齢化、担い手不足による遊休農地が目立っております。農地の有効活用が農業、地域の発展に繋がるものと思えます。

そこで、農水省の新規施策、「人・農地プラン」(新規就農者・農地集積への支援)の報告がありました。

これを機に将来の農業の在り方を地域で検討願います。今後とも、内容の充実した会報を発行して行きたいと思えます。ご意見・ご要望がありましたら編集委員会までお寄せ下さい。(小林委員)

編集委員長 猪鼻 文明
編集副委員長 道祖土次男
編集委員 藤崎 民夫

相談役

石黒安太郎
横川 博一
小林 一夫
遠藤 光男
藤崎 民夫
猪鼻 文明
道祖土次男
道祖土次男
道祖土次男